



2022 年度市民公開講座「東北大学病院における新型コロナウイルス感染症への対応」を開催しました（2023/1/28）

テーマ：新型コロナウイルス感染症、東北大学病院
会場：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2023年1月28日（土）、東北大学災害科学国際研究所にて、コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム、2022年度市民公開講座「東北大学病院における新型コロナウイルス感染症への対応」を開催しました。医療関係者、行政職員、一般市民など36名が参加しました。佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が会場責任者として運営にあたりました。

2020年に始まった国内でのコロナ禍も3年が経過し、手探りで始めた新型コロナウイルスへの対応も初期と現在では大きく様変わりしました。また、今年5月には感染症法上の分類が変更される予定となったことで、社会全体のコロナ対応も新たなステージに入ります。東北大学病院は新型コロナ流行を「感染災害」と捉え、流行初期から多くの入院・重症患者を受け入れ、治療に当たりました。また宮城県新型コロナウイルス感染症医療調整本部（本部長：富永悌二東北大学病院院長）への医師派遣をはじめ、ドライブスルー検査、ホテル療養支援、高齢者施設支援、ワクチン接種など、宮城県内の新型コロナ対応に多岐に渡って携わってきました。

当日は、富永東北大学病院院長の開会挨拶に始まり、宮城県新型コロナウイルス感染症医療調整本部副本部長の石井正教授（東北大学病院）、ホテルでの軽症療養者医療支援を一手に引き受けた高山真特命教授（東北大学大学院医学系研究科）が、現在までのコロナ対応について報告しました。また、ダイヤモンドプリンセス号対応で陣頭指揮にあたった神奈川県医療危機対策統括官、厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策アドバイザーの阿南英明藤沢市民病院副院長が、「新型コロナウイルス感染症対応戦略の現況と今後にあり方について」のタイトルで特別講演しました。阿南氏は、本年5月以降のコロナへの向き合い方として、コロナ禍前の体制を目指すのではなく、新しいコロナ共存社会を目指すべきで、そのためにはIT・デジタル技術による情報共有基盤整備、人材育成が必要であることなどを強調しました。



東北大学病院院長
富永悌二教授 開会挨拶



東北大学病院
石井正教授 講演



東北大学大学院医学系研究科
高山真特命教授 講演



神奈川県医療危機対策統括官 阿南英明氏 特別講演



阿南氏によるダイヤモンドプリンセス号対応報告



多目的ホールを広く使用し
公開講座を運営

文責：佐々木宏之（災害医療国際協力学分野）